

## 被災地 トルコ共和国で 救急救命センター医師2名が現地で活動

2023年2月6日にトルコ南部で発生した大地震の災害支援のため、国際緊急援助隊の医療チームの一員として、第一次隊に竹田津史野医師が、第二次隊で八木雅幸医師が現地入りしました。余震の続く厳しい環境の中、日本医療チームのメンバーと1日約100人の診療を行い、約2週間の活動を終え帰国しました。

八木医師は、外来診療全体の統括役としての任務を担い、竹田津医師は、産婦人科の専門医の資格を生かし、主に妊産婦の外来診療に携わりました。



写真提供 JICA

### 東日本大震災の 恩返しをする思いで..

救命救急センター 八木 雅幸

#### 1. 現地でどのような活動をされましたか？

外来部門長として、外来診療全体の管理を行いました。具体的なタスクは、トリアージから受付、予診、診察、処置室、レントゲンや検体検査、リハビリなどの部門がうまく機能するようにすることと、診療・治療内容がトルコの方々にとって適切な良いものになるよう、現地の医療関係者とともに検討・調整することです。また、救急科医師として、外傷や熱傷、内科的疾患の診療、時には精神的な症状の患者さんの診療等も行いました。

#### 2. どのような想いで活動していましたか？

自分自身も2011年の東日本大震災で被災した経験があります。その時は助けられる立場でした。その経験から、災害医療に関わるようになりました。激甚災害の場合には、国を超えた対応が必要になるため、国内外問わず対応できるように、国際緊急援助隊にも参加し、準備をしてきました。トルコは、東日本大震災の時に迅速にかつ長期に救助隊を送っていただいた国であり、恩返しの気持ちで活動しました。



写真提供 JICA

#### 1. 現地でどのような活動をされましたか？

一次隊として現地入りをし、診療所の立ち上げのためにテントの設営や物品の搬送などから始まりました。外来だけでなく、病棟や手術室、分娩室などもあるため、大型テントを多数組み合わせ合わせて設営しました。

診療所の立ち上げ後は、救急科と産婦人科の専門医として、外来を中心に患者の診療にあたりました。いわゆる風邪症状の患者や、慢性疾患の患者、軽症外傷などの患者が多く、また震災以降に妊婦健診を受けていない妊婦の受診も多かったです。

#### 2. どのような想いで活動していましたか？

妊婦や小児は災害弱者といわれています。産婦人科医として、特に妊婦の不安や小児の不安に少しでも寄り添えるように活動しました。妊婦健診で元気な赤ちゃんをエコーで見せたときに、妊婦さんから笑顔が見られたときには、とてもやりがいを感じました。言葉が通じなくても、表情やジェスチャーで感謝を伝えてくれる患者が多く、こちらが逆に励まされることも多かったです。

### 被災地での患者さんの笑顔と ありがとうございます励まされながら..

救命救急センター 竹田津 史野



写真提供 JICA

## 外来を受診される方へ

診療科により、紹介制や予約制を設けておりますので、受診の際は  
お電話または診療科のホームページをご覧ください。



※1 以前当院を受診した方でも初診になる場合があります

・診療を受けていた病気が治癒した後、新たな病気について診療を受ける場合  
・予約日に受診せず、任意に診療を中止し、一定期間経過した場合

※2 初診の予約方法

・かかりつけ医から紹介状を受け取り、患者さんがお電話で予約をする方法  
(お手元に紹介状をご準備ください)  
・かかりつけ医からFAXで予約をする方法

※3 次の場合は選定療養費のご負担はありません

・救急車で当院に搬送された方  
・生活保護による医療扶助の対象となる方  
・特定疾患など各種公費負担制度受給対象の方  
・労働災害・公務災害で受診の方  
・今回受診する診療科は初めてだが、別の診療科に通院中の方

## 松戸市長へ表敬訪問を行いました

3月17日(金)に被災地での活動報告のため、  
松戸市長へ表敬訪問をしました。

松戸市長との対談では、医療方針の際の現地  
医師との調整談や氷点下の中での被災地の現状、  
医療を通じての妊婦さんやお子さんとのふれあ  
いなどを報告し、松戸市長からは、「市の職員  
が貢献できて大変うれしく思う」と感謝の言葉  
をいただきました。



(左) 竹田津史野 医師 (中央) 八木雅幸 医師  
(右) 本郷谷健次 市長